ミュージアム通信

小川原脩記念美術館　☎21-4141
観覧料：一　　般　500円[400円]
　　高校生　300円[200円]
　　小中学生　100円[50円]
倶知安風土館　☎22-6631
観覧料：一　　般　200円[100円]
　　高校生以下、美術館観覧者無料
　　※年間パスポート500円
※[　]内は10名以上の団体料金
開館時間は9時～17時(最終入館16時30分)

11月の休館日　毎週火曜日
11月3日㈫は祝日のため開館、
4日㈬は休館

博物館のおしごと①

小川原脩記念美術館、倶知安風土館は「歴史、芸術、科学、自然などの大切な資料や作品をあつめ、保管し、研究して、一般の人々に見てもらうための施設（博物館）」として、美術館では小川原脩の作品を中心に、郷土ゆかりの美術作家の作品を展示、保存し、風土館では倶知安の自然や人びとの生活、歴史、文化に関する資料を展示、保存、調査･研究して、町民の皆さんが文化活動や郷土の風土を学習する場を提供しています。

私は両施設を運営する上で重要なものの一つが「展示」だと思っています。

「保存されているものをただ並べて見せる」だけではなく、施設を利用される皆さんに「展示作品を見て感動した」「展示内容が勉強になった」と感じていただけるような展示を目指して学芸員が企画・構成を考え、スタッフがサポートして展示をつくりあげています。

今後も両館では質の良い展示ができるよう工夫しながら、たくさんの方々にご覧いただけることを心待ちにしています。ぜひお越しください！

館長　高橋淳之（たかはしあつし）

展覧会のお知らせ

■第1展示室

第68回麓彩会展

会期：開催中～令和9年1月17日（日）

1958年、小川原脩をはじめとする8人の発起人により創設された「麓彩会」。倶知安にゆかりのある作家たちの近作を通じて、多彩な美術を紹介します。

■第2展示室

小川原脩と麓彩会－はじまりの頃

麓彩会創設に関わりのある野本醇、因藤壽、穂井田日出麿と、坂口清一、徳丸滋、谷口一芳などの作品を紹介します。

会期：開催中～令和9年1月17日（日）

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

ギャラリートーク

日時：11月14日（土）14時～14時30分　予約不要・無料

会場：第2展示室　講師：沼田絵美（副館長）

おとなの手しごと㊳「折り染め和紙の紙バッグ作り」

日時：11月21日（土）14時～16時

会場：ロビー　講師：金澤逸子（学芸スタッフ）

定員：10名・要予約・無料

予約受付：電話申込（☎21―4141）

■ロビー展示

第19回絵画コンクール「ふるさとを描こう」作品展

絵画コンクールに応募のあった子どもたちの作品、全158点をロビーに展示します。入賞者は町HPからもご確認できます。

日時：11月3日（火・祝）～12月6日（日）

会場：ロビー（無料）

倶知安風土館のお知らせ

■寺子屋ミュージアム

「作ろう！知ろう！ニセコ連峰③」

石こうで山の模型を作って、地形や自然について学びます。③は目国内岳、岩内岳、雷電山周辺です。

日時：11月7日（土）13時30分～16時30分

場所：倶知安風土館　※要予約（11/6まで）　定員：10名

講師：古市竜太さん（マウンテンガイド・コヨーテ主宰）

参加費：300円（材料費）

■文化の日（11月3日）は美術館・風土館無料開放

イベントを開催します

○小川原脩記念美術館

・ふるさとを描こう絵画コンクール表彰式　10時～

・友の会「フェルトワークショップ」　11時～（20名・予約不要）

・友の会「ポストカード・ペーパークラフト配布」　終日

感動の一点



『洪水』

1965年　小川原　脩　画

今年、日本の各地で起きた災害を象徴するようなタイトルに目がとまりました。1961年、62年に北海道南西部は低気圧による大雨に見舞われ、倶知安でも尻別川の氾濫により田畑は流され多くの家屋が浸水するなど甚大な被害が出ました。これはその数年後に制作された作品です。

小川原脩は荒々しい水害の印象を画面いっぱいに描写しました。馬は赤茶色の濁流に足を取られまいと体を丸めて踏ん張り、犬たちは首まで水に浸かりながらも必死に泳いで逃げようとしています。水面には水しぶきがたち、激しい流れの中でもがく動物たちの荒々しい息が聞こえてくるようです。

そしてこの作品に描かれているのは洪水被害の情景だけではありません。戦後の高度成長期だったこの頃、社会は大きく変化し、人々は同調圧力の向かう方向へと押し流されて行きました。大きなうねりの中に個が飲み込まれることを危惧した小川原は、洪水に流されまいと必死に抗う動物たちをモチーフにして自身の心情を表したようにも思えるのです。

文：金澤　逸子（小川原脩記念美術館　学芸スタッフ）

ふるさと探訪

ヒナコウモリの楽園・百年の森

523回

倶知安でよく見られるヒナコウモリのメスは、初夏になると百年の森公園のある八幡地区を中心に、出産と哺育のためのコロニーを作ります。1997年に個体数のカウント調査が始まって以降、多い年では3千頭を超えることもしばしばで、その規模は道内有数、図鑑にも掲載されているほどです。メスは基本的に2頭の子どもを出産するため、最終的には9千頭近いコロニーになります。屋根裏などに住みつき、排泄物で汚すことがあるため害獣扱いされることも多いですが、主食のカやガ、カメムシなどの昆虫を一晩で数千匹捕食することから、益獣の面も併せ持っています。

百年の森公園では長年、東海大学などの研究機関によってコウモリ研究が行われており、ヒナコウモリが津軽海峡を境に北海道と本州で遺伝的に区別されることや、夏季は出生地に戻り、冬季は出生地から遠く離れた場所でも越冬をするなど、季節的な移動を行っていることなどが解明されてきています。ただ、オスがどこで活動しているのか、越冬をどこでどのように過ごしているのかなどの情報が少なく、その生態には未解明な点が多く残されています。

晩秋のある日、町内の建物でヒナコウモリが越冬しているのが見つかりました。この個体はどこからやってきたのでしょう。



▲越冬中と思われるヒナコウモリ

文：小田桐　亮（倶知安風土館　学芸員）